

迎撃ミサイルPAC3の都心展開演習を止めるために

杉原浩司

公園にミサイルがやってくる！イヤイヤイヤ！ 八月末、入間基地に三月末に初配備されたパトリオットPAC3ミサイルの都心への移動展開演習が九月中にも画策されていると報じられた。入間のPAC3（射程は半径約二〇キロ）の任務は首都中枢（皇居、首相官邸、国会、中央省庁など）の防衛。迎撃には事前に部隊が都心に移動することが不可欠となる。既に三月の時点で、防衛省が自衛隊駐屯地の他に国・都用地（皇居前広場や都立公園など）を展開候補地として検討していることが明らかになっていった。今回、市ヶ谷、練馬両駐屯地とともに有力候補に浮上したのは代々木公園（渋谷区）と晴海ふ頭公園（中央区）である。

「公園にミサイル」という前代未聞の事態をた易く許すわけにはいかない。まずは情報公開を迫るために公開の防衛省ヒアリングを緊急に設定した。東京都選出の川田龍平参議院議員を通して、事前に追加分を含む一九項目の質問を提出。九月二十八日に参議院議員会館で回答を聞いた。防衛政策局防衛計画課の中間秀彦班長ら六人が出席。市民側は人間や習志野で反対運動に参加している人たちを含む約一五人が参加した。

防衛省は「計画が固まっている」「部隊運用に直結する」を連発して、予定日時や通行ルートに留まらず、警備態勢、自治体（東京都）との協議状況などについての回答を拒否。参加者からは「住民への説明義務を果たせ！」と怒りの声が高かった。

部隊展開に伴う建築制限や飛行制限区域の設定は否定したが、懸念される強力なレーダー波の人体などへの影響に関しては、「総務省令である電波法施行規則に示された基準値を守って運用するから大丈夫」と回答。測定器が常備されないばかりか、具体的数値も「レーダーの性能が推測されてしまうので公表できない」とつっぱねた。

ただ、PAC3の今年度中の首都圏追加配備予定については、習志野が一

二月から来年一月、武山（横須賀市）が一月末、霞ヶ浦が三月末とのメドを初めて示した。それらのミサイルの展開想定地域に関しては、「妨害を考える人（市民の反対運動を指すのではないと後で釈明）がいるので」と回答を避けたが、「首都圏以外への展開もあり得る」とは言及。また、発射試験は日本の機材を持ち込んで米ニューメキシコ州ホワイトサンズで〇八年度、〇九年度と行うとした。さらに三菱重工のPAC3関連ライセンス生産の契約額は〇八年度配備（浜松）分が約五四〇億円、〇九年度配備分（岐阜など）が約六五〇億円に上ることもわかった。PAC3の耐用年数については「事例なく不明」と事後回答。発射時に出る煙の成分については、米側に問い合わせたの事後回答を約束した。

すかさず〇月一日には防衛省への要請行動を約三五人の参加で取り組んだ。習志野や練馬からの発言を受けた後、演習中止とPAC3撤去を求める石破大臣あて要請書を地方協力局の竹道可展（展開可能？ 因縁めいた名前だ）氏に手渡した。

福士敬子都議は、都市公園法第一条や都立公園条例第一六条などの規定にも反するとして、公園使用を認めないよう都に対して文書質問を提出（回答は一二月議会）、また練馬区、渋谷区などで地元区議らが区長に都への反対要請を求める動きも出てきている。

その後、〇月一四日の日経が、「一月中旬にも実施へ」と報じ、二〇両を越す大規模な車列となる見込みと伝えた。「軍事機密」を盾に口を閉ざす防衛省に対して、質問主意書提出などで情報開示を求めつつ、軍事演習を止めるために策を練りたい。ここで踏ん張らないと、同様の演習が西へ西へと繰り返されていくことになる。悪しき前例を作らせないことが、ついでに守られる「都民の課題なのだ」。

（すぎはら・こづじ／核とミサイル防衛にNOーキャンペーン）

〔要請書〕

防衛省は迎撃ミサイルPAC3の都心展開演習を中止し、ミサイル防衛から撤退を！

防衛大臣 石破茂様

防衛省は入間基地に配備したミサイル防衛(MD)用迎撃ミサイルパトリオット3(PAC3)の都心への移動展開演習を行おうとしています。展開候補地として市ヶ谷練馬駐屯地に加えて都が管理する代々木公園、晴海ふ頭公園、明治公園が挙がっています。

政府が「純粹に防衛的」とするMDは、そもそも米国の先制攻撃戦略にとって不可欠の「反撃無力化装置」先制攻撃促進装置として構想されており、極めて攻撃的かつ威圧的な兵器システムです。米国によるMDの東欧配備は、新型弾道ミサイル配備などロシアの激しい対抗軍拡とともに、配備予定地であるチェコ、ポーランドにおける反対運動の高揚をもたらしています。

今回予定されている移動展開演習は、北朝鮮や中国など周辺国を刺激し、進行中の外交的問題解決のプロセスを妨げる。市民社会に軍隊の姿を見せつけ慣らさせると同時に、軍事優先の態勢を整備し、「社会の軍事化」を促進する。「防衛」とは名ばかりで、逆に相手からの標的となるリスクを周辺住民に押しつける。「軍事機密」を盾とした情報統制により「文民統制」を一層形骸化させる。移動時の交通規制、ミサイル発射時の周辺被害、強力なレーダー波がもたらす影響など、移動展開が引き起こす諸問題が全く公開されていない。展開装備の「防衛」を名目とした過剰警備の恐れ、など多くの問題をばらんでいます。

それにも関わらず、防衛省は情報公開と説明責任を全く果たそうとていません。九月二八日の参議院議員会館での公開ヒアリングでは、「部隊運用に関することなので答えられない」「まだ計画が固まっていないので話せない」との回答が連発されました。六兆円の試算さえある莫大な税金が投入されるばかりか、住民の安全をむしる脅かすMDが、「軍事機密」のブラックボックスと化すことを認めるわけにはいきません。必要なのはミサイル防衛ではなく、ミサイル軍縮です。今こそ、具体的な目標を掲げた保有兵器(在日米軍を含む)の削減交渉こそが提起されるべきです。

私たちは、防衛省に対して、百害あって一利なしのPAC3都心展開演習の中止を要求します。併せて、入間基地に配備されたPAC3ミサイルの撤去と更なる首都圏配備の中止、そしてミサイル防衛計画自体からの完全撤退こそを強く求めます。

二〇〇七年一〇月一日

核とミサイル防衛にNO!キャンペーン

10・1防衛省要請行動参加者一同

テロ特措法廃止、新法 つくるな! 洋上給油をやめろ!

11.4 防衛省抗議行動へ参加を!

日時: 2007年 11月4日(日)

14時集會開始 14時半ごろデモ発

場所: 市ヶ谷外濠公園 (JR市ヶ谷駅すぐ/交番裏手)

主催: 新しい反安保行動をつくる実行委員会

東京市千代田区三崎町3-1-18 近江ビル4階

FAX: 03-3234-4118

メール: hananpojitsu@jca.apc.org

URL: http://www.jca.org/hananpojitsu/

